

教育目標	教職員が一体となって、普通科と県下唯一の芸術系学科を有する公立高校として、基礎学力の充実と規範意識の醸成を土台に、コミュニケーション能力、自己表現力、社会性を持った感性豊かな生徒を育成する。				総合評価	
運営方針	落ち着いた学習環境のもと、基礎学力の充実と規範意識の醸成を土台に、コミュニケーション力、自己表現力、社会性を持った人材を育成する。 安全で安心な環境作りに努め、一人一人の個性を伸ばし、志の高い「生きる力」を持った人材を育成する。 教職員が一体となって学校運営を進め、魅力と活力ある学校を目指す。					
平成27年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標				
研究授業等を生かしながら、「わかる授業」を目指し、生徒の学力の向上やコミュニケーション能力の伸張に努め一定の成果を上げることができた。更に取組を進め向上を目指したい。基本的な生活習慣の確立(遅刻等の減少)やキャリア教育、養護学校との交流活動など心の発達を目指す活動の推進にも成果をあげることができた。今後は更なる「学習意欲を高めること」とともに、「地域との連携」「地域の中での高円高校の在り方」など生徒の心の成長を目指し、「自ら律する心」や「おもいやり」「豊かな人間性」を育成する取組を推進していくことが課題となっている。	学力の定着・向上と主体的な進路実現(基礎力の育成)	授業改善に努め、「わかる」授業を進める。学力の向上を図り、キャリア教育を充実させる。生徒自らが主体的に進路選択できるよう指導する。			B	
	規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立を目指す。	生徒一人一人の理解に努め、はじめある生活態度や他者への思いやりの心を育成すると共に、自立心を育て社会の一員としての自覚を深めさせる。				
	心身の健康や体力の保持増進	教科指導や特別活動、保健・食育指導等とおし、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体とおし、安定した細やかな心、強い心を育てる。				
	芸術教育の推進と交流活動の展開・発信	芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりに努める。交流活動をとおし、地域や保護者、関係機関との連携を深め、情報発信に努める。				
評価項目	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
総務	学校行事等の円滑化と、儀式での集中力の向上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要行事では各担当者だけでなく、教員全体で協力、補い合い円滑な運営を行うことができた。</li> <li>・新たに「芸術に親しむ会」を実施でき、一定の成果があった。次年度以降、このような行事を計画されることがのぞまれる。</li> <li>・始業式終業式など節目の式では、大きな声を出さなくても生徒は自主的にスムーズに集合整列し、開始予定時刻よりも早く式を進めることができた。しかしまだ担副で服装面などの指導の徹底がのぞまれる。</li> </ul>	教員自身が体制に慣れて緩慢になっている部分がないか点検しながら、引き続き協力体制の強化と改良を図る。	広報活動を充実させるとともに、卒業生の満足した高校生活の感想などをホームページに掲載してはどうかというご意見をいただいた。
	広報活動の充実	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校での学校説明会は、夏に美術科・デザイン科、音楽科で実施、秋に普通科も加えて4科合同の3回実施した。771名の生徒、保護者の参加があり、良い印象のアンケートが多かった。校外での説明会にも積極的に参加し、広報に努めた。</li> <li>・ホームページの更新は、校長先生の発信(学校長の部屋)に助けられることが多く、教員からの情報発信が十分でなかった。</li> </ul>	ホームページ作成研修会の実施と同時に、更新(少なくとも年1回以上の更新)をうながす声がけを怠らないようにする。	
	学校ネットワークシステムの充実と活用を推進する	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試システム再構築は、進行中。(60%) 入試業務を時系列で進められるシステムを開発中。</li> <li>・マニュアルは、今年度末にサーバを含め、機器が大幅に入れ替わるため、再構築が必要になった。これから見直していく。</li> <li>・分掌等からの要望にはほぼ応えることができた。(95%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試システムは、これから始まる入試処理で検証しながら、課題と要望を明確にし、反映させていく。</li> <li>・マニュアルは、次年度に再構築する必要がある。</li> </ul>	
	保護者との意思疎通の向上と同窓会活動の円滑化	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事への保護者参加率を上げるための具体的な方策は今年もできなかった。</li> <li>・同窓会関係のスムーズな手助けはできている。ただ毎年のことながら、後年へのつながりを考えると不安なところもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室と連携しながら育友会との連携を強めたい。</li> <li>・若い年代の総務部員の配置が望まれる。</li> </ul>	

教 務	生徒の基礎学力の向上を図るとともに、自主的な学習姿勢の向上を図る。	・長期休業中の課題・課題テストの効果と運用の在り方を検証し、教科、進路指導部と連携してさらなる改善をすべく、検討を加える。客観的な検証・検討ができればB。その結果、有効な改善ができればA。 ・「下学上達」に積極的に取り組ませる。現状や効果を各学年から吸い上げ、各学年の実態に即した、より充実した内容に改善していく。学年からの意見を整理し、内容を改善できればB、それに基づいた成果があればA。	B		課題テストに関しては、各教科での検討・運用が主であり、課題内容は適宜検討されている。  下学上達は、多様なとりくみが展開されてきている。学年毎に到達度の確認や改善を促すよう工夫されている。朝のSHR後、落ち着いた状態で行われており、生活面には一定の効果もたらされていると思われる。	学年・教科によるとりくみの結果として、基礎学力の向上と、基本的な生活習慣の確立は徐々に進んできていると考える。更なる積み重ねが大切である。 教育課程の見直しに関しては、状況を検証しながら、更なる改善を計画してゆく必要がある。	目標をもって勉強するきっかけを作ってやって欲しい。  家庭学習が不足気味であるが、家庭で学習したくなる仕組みが大切であるというご意見をいただいた。
	各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討、編成をする。	・学習指導要領に基づいて、各学科、あるいは類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討を継続的に行う。検討の進捗状況により評価を行う。 ・昨年度の「高志創造」実施内容と成果を引き継ぎ、より充実した学習内容にする。音楽、美術、デザイン科の「奈良TIME」の学習プログラムは、言語活動等の活動を視野に入れて再編を検討する。	A	B	昨年度、第2学年Ⅲ類型において、理科の学習に重点を置くことを目標として、教育課程の再編成がおこなわれた。本年度は再編後2年目であり、効果の程を見守りたい。 高志創造の実施は順調に進んでおり、来年度の計画に向けてさらに検討を加えてゆきたい。	観点別評価とアクティブラーニングに関しては試行に向け更なる調査・研究をしてゆくことが必要である。	
	学習指導要領の動向に対応すべく、調査研究をする。	・観点別学習状況評価について、調査・研究を各教科・教科とともに進める。来年度に向けて、職員間に一定の意思統一ができればB。基準ができ、何らかの形で試行ができればA。  ・アクティブラーニングについて、調査・研究を各教科・教科とともに進める。来年度に向けて、職員間に一定の意思統一ができればB。何らかの形で試行ができればA。	B		職員全体に観点別学習状況評価に対する研究および、アクティブラーニングの試行をお願いした。春・秋の公開授業・研究授業期間を中心に各教科で試行・研究がなされた。教科と連携を取りながら意識の統一を図り、徐々に試行を進めている状況である。		
進路指導	生徒の自発的な学習の啓発と主体的な進路実現の支援	・年間計画に沿って効果的に進路学習を進め、各学年におけるホームルーム活動、進路行事、集会を通じて、自己を振り返り、将来を展望する機会を増やす。 ・大学入試等に対応できる学力の伸長を目指し、生徒一人一人の進路希望に応じた進路対策講座の充実を進める。	A		・普通科対象に第1学年は類型選択前に生徒が希望する分野別に説明会、第2学年は就職・公務員・専門学校ガイダンスと大学の模擬講義を実施した。第3学年は4日間で7校の大学別説明会を実施した。 ・第3学年は5月から第2学年は11月から実力養成講座、全学年希望者対象にスタディサブリの登録(53名)、7月にオンライン講座を実施した。 ・1・2学年別に教員対象に進研模試に関する研修会を実施した。	・昨年度から第1・2学年は進研模試、第3学年は進研・河合模試を校内で実施しているが、家庭学習につながるよう、効果的な利用を考えていきたい。	進学に関して、1、2年生の間は親もまだまだと安心しており、生徒とともに親への働きかけも大切であるというご意見をいただいた。
	進路情報の提供の充実	・「進路ガイドブック」の充実や「進路インフォメーション」の発行等による生徒及び保護者への啓発に努める。 ・個々の進路希望に対応した適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。 ・ホームページ上での進路情報の発信を増やす。	B	B	・「進路ガイドブック」を全学年でHR・集会などで活用した。 ・「進路インフォメーション」学期に1回三者懇談時に発行した。 ・HR・集会・三者懇談等で進路資料を配布した。 ・HPで進路行事の情報を発信した。	進路情報を精選し、有益な情報を提供することで、生徒・保護者の進路に対する意識を高める。	
	本校におけるキャリア教育の構築と推進	・生徒がキャリア デザインを描くためのガイドになるような機会や情報を提供する。 ・保護者対象の進路講演会・大学見学会を実施する。 ・看護体験学習、保育所・施設訪問への参加により、望ましい勤労観や職業観の育成を図る。	B		・第1学年で生徒の興味関心アンケート「夢ナビプログラム」を実施した。 ・第2学年で「進学事典」を利用して将来の進路を考えさせた。 ・第2学年希望者対象に就職・公務員・看護医療の分野別ガイダンスを3学期に実施した。 ・希望者による一日看護体験、希望者・家庭科による極楽坊保育所、ピア委員・音楽部による老人福祉施設訪問を実施している。	より多くの機会を準備し、体験することで個々の生徒がキャリアデザインを具体化できるように支援する。	

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・あいさつの徹底や遅刻の防止に努め、正しい言葉遣いの指導にも積極的に取り組む。特別な事情のない限り、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。同時にカッターシャツ、ブラウスの第一ボタンを締めさせるとともに、服装を正し生活させる。	C	・挨拶については、昨年同様。もっと明るく、元氣よく、爽やかな挨拶ができるよう指導したい。・遅刻については昨年より250件減少した。尚、5分前の駆け込み登校者は1、2学期(1日Ave)昨年44、8人が27人と減少した。今後も粘り強い指導が必要である。・服装については、概ね良好であったが、例年よりスカートなどの短い者、ネクタイ、リボンの弛んでいる者等の指導に時間を費やすようになってきているところが少し気になる。	・来年度も引き続き目標にする。・一斉登校指導を実施する。・再度、先生方と共通理解を深め生徒の指導にあたる。	バス内や電車内の行動などで、営業所や駅に苦情がきていないので、マナーは良いと思われる。引き続き指導をお願いしますという意見をいただいた。	
	日常生活におけるマナー・モラルの周知徹底	・登下校時における、公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図る。また、自転車事故や外部からの苦情等を少なくする。(昨年度の3割減を目標とする)	C	・自転車事故については、昨年3件であったものが7件と倍増した。また、一つ間違えば命に関わりそうな事故も3件起こっている。(時間に余裕のない行動が原因と考えられる)・外部からの苦情は9件(昨年比+2)。特別指導は3件(昨年度比-7)と減少した。また、2学期もバス乗車中の苦情や下校時の自転車マナーについての苦情あったため、生徒達の規範意識の醸成に向け努力したい。	・全校集会や各種講演会を実施する。また、各機関から提供される情報をHRなどでアナウンスし注意喚起に努める。	新入生は、通学に慣れるまで、混乱がおきます。新入生の指導もよろしく願いたいという意見をいただいた。	
特別活動	生徒の自主的・自発的な活動の推進	・文化祭等の学校行事への関わり、校内・校外美化活動、あいさつ運動などへのより積極的な参加を奨励、推進する。 ・集会、学校説明会などでの活躍の場を生徒会役員に積極的に与える。	B	・「集会などでの活躍の場」を生徒会活動に求めるのはあまりにもハードルが高かったが、あいさつ運動では生徒自らその必要性を感じ、実践に結びついたのは評価できる。 ・文化祭への取り組みは始動が遅かったので活動が後手にまわってしまった。	・来年度は文化祭の取り組みを新学期早々に始める。また夏休み後半を文化祭準備期間として全校生徒にも意識付けを早くから促す。		
	学科間の交流、部活動の活性化	・学科・クラブ活動間の交流を活性化させるためにも、フットサル大会を生徒会主導で開催し、新体制での活動に弾みをつける。 ・芸術系学科の様々な活動を学校全体の活動と捉えられるように、生徒会がその架け橋となるべく方策を探り、実践に結びつける。	B	B	・昨年は実施できなかったフットサル大会が、学科間、クラブ間、更には高等養護分教室の生徒とも交流を活性化させる良いきっかけになり、2学期の文化祭でも新鮮な刺激となった。	・既存の各行事や活動にもっと「交流」の視点を設け、生徒達の目線で互いの良い点を意識、吸収させる。	特になし
	図書館利用、運営の活性化	・クラス文庫用の図書を充実させるとともに、クラスへの図書館利用を積極的に働きかける。 ・課題研究や資料参照など教科での図書館利用を一層活性化させるために各教科との連携を深める。 ・クラス図書委員の活動の幅を大きくし、新たな角度からの図書館利用を図る。	B	・図書館利用者は僅かではあるが漸次増加傾向にある。訪れやすい雰囲気づくりの努力は絶えず試みている。 ・国語科、美術科などの教科と連携することができた。本年も読書感想文、読書感想画では秀作が出品され二作品が奈良県代表作品に選ばれた。	・本の検索のためのコンピューター(できれば複数台)の導入(交換)を切望する。より実用的な活用が期待できる。		

健康安全	校内、校外美化の徹底と防災、防火に関する意識啓発を図る。	・校内及び校外美化活動を各学期に1回実施する。 ・避難、消火訓練・シェイクアウト訓練を通して防火、防災の意識向上を図る。	B	B	・校内、校外美化活動については美化委員を中心に熱心な活動が見られた。 ・避難、消火、シェイクアウト訓練を通して防火防災に関して意識、啓発を行った。	・広報活動の充実 ・シェイクアウト、避難訓練の合同実施	特になし
	健康状態を把握し自己管理できる生徒を育成する。	・保健委員会の活動を通して健康意識の向上を図る。 ・保健だよりを月1回発行し、健康意識を高める。	B		・保健委員を中心に文化祭等で健康意識の啓発活動を行った。 ・保健だよりを月1回発行し健康意識の向上、インフルエンザ・ノロウイルスの感染予防を行った。	・学校衛生、保健委員会の内容をふまえてより良い環境作りを目指す。	
	スポーツテスト、体育大会、長距離走大会の安全な運営を目指す。	・体育委員会の活動を通して各大会の円滑な運営をはかる。	B		・体育委員会活動を通して各大会の準備、円滑な運営が行えた。	・長距離走大会、初めて高等養護学校と合同実施を行ったが、ゴール等次年度に向けて調整が必要である	
人権相談	人権に関する知的理解と人権意識、感覚の向上を図る。	・現地研修及びバルツァゴードルでの研修を通して、人権問題に対する意識の向上を図る。 ・共生社会の形成に向けて、インクルーシブな学校づくりを進める。	B	B	・横井支部での研修では岡田副支部長さんの生い立ちを伺うとともに現地のフィールドワークで充実した研修になった。	・横井支部との交流は本校の人権教育のもととして継続していきたい。	特になし
	生徒の交流を充実させ、共に生き、共に育つ仲間集団作りの取組を進める。	・奈良養護学校、バルツァゴードルとの交流会を年4回実施する。 ・音楽科やその他の部とも連携し、新しい交流会の形を作る。	A		・奈良養護学校、バルツァゴードルでの交流会を予定通り実施できた。12月の奈良養護学校との交流会にはコーラス部も参加でき好評であった。また交流委員の参加生徒も得るものが大きかった。	・毎年のことであるが交流委員全員が参加できる日程を探りたい。	
	特別支援教育の充実	・スクールカウンセラーや関係機関と連携し生徒・保護者に適切な援助を行える力を高める。 ・ピアサポーターとの連携を深め生徒理解に活用する。	B		・スクールカウンセラーを講師として職員研修を2回実施できた。また特別支援教育委員会を2回開催した。継続した開催が必要である。 ・ピアサポーターに話を聞いてもらう生徒も増えてきているのでピアサポーターは本校では生徒たちに必要な存在である。	・ピアルームへの生徒の来室状況やスクールカウンセラーと活用状況からピアサポーター・スクールカウンセラーともに来年度も必要不可欠である。	

第1学年	きれいに制服を着用する、欠席・遅刻・早退をしない、あいさつ・返事をしっかりする、正しい言葉遣いを身につける、ルールや期限を厳守するなど基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	あいさつの励行、正しい言葉遣いの指導を徹底する。 遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。) 服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底する。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。)	B		こちらからあいさつすれば返すが、自らする生徒は少なく、引き続き指導が必要である。欠席・遅刻・早退は比較的少なく落ちついているが、遅刻指導をした生徒は10名と昨年度より2名増加し、常習的に遅刻する生徒が出てきている。頭髪指導をした生徒は10名いたが、いずれも素直に指導に従い改善している。特別指導はなかったが、全体的に幼い生徒が多く、ひとつひとつ丁寧な指導を継続することが必要である。	自ら気持ちよくあいさつできるよう、指導を強化する。遅刻指導は2学期より強化し、減少に努めている。服装・頭髪とともに引き続き指導を継続する。	特になし
	基礎学力の向上のため、家庭学習の習慣づけを行う。できたことを認めることで積極的な学習態度を育成する。	教科担当と連携を取りながら、つまずきの早期発見や、課題提出を厳格に守らせるように徹底する。「下学上達」に積極的に取り組ませ、基礎学力の向上を図る。	B	B	学級担任と教科担当が連携を取り、個々の状況把握に努めている。全体的には課題の提出状況はよくなってきているが、特定の生徒が提出できていなかったり、課題こそできてはいるが期限を守れなかったりしている。「下学上達」は各クラス静かに取り組んでいる。家庭学習のさらなる充実が今後の課題である。	全員が期限内に提出できるよう、引き続き担任・教科担当の連携を密にし指導を徹底する。「下学上達」のテスト不合格者に対する指導も引き続き行い、定着をはかる。	
	教科指導や部活動を通して、自己表現力、コミュニケーション力、社会性の獲得を目指す。	学校行事や学級活動に積極的に参加させることで、仲間づくりや他の生徒を尊重する態度・意識を持たせる。	B		奈良TIMEを含め、各学校行事に積極的に取り組み、クラス内での仲間づくりも良好に進行している。しかし、各科間の交流は少なく、学年全体とまでは至っていない。また、自己表現力やコミュニケーション力が低い生徒が多いように感じられる。	学校行事や学級活動において主体的に取り組むことにより自信を持たせる。	
第2学年	基本的な生活習慣を身につけさせ、規範意識を向上させる。	遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。) 服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。)	C		遅刻指導をした生徒は17名。昨年度に比べ7名増加した。頭髪指導をした生徒は12名。昨年度に比べ2名増加。特別指導をした生徒は6名。昨年度に比べ1名減少した。昨年度よりも進歩は見られるが、集団の中で規則や規範の重要性をまだ十分に理解できない生徒がいる。	常習的に遅刻を繰り返す生徒に、粘り強く指導を継続する。頭髪指導は、3年間継続指導する。	特になし
	基礎学力の向上のため、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化をはかる。	課題の提出を全生徒に厳格に守らせるように徹底する。(期限厳守、提出率100%を目標とする。) 予習の仕方から丁寧に教え、予習の確認を定着するまで必ず行う。(予習率100%を目標とする。) 小テスト等を課し、できたことを認めることで積極的な学習態度を育成する。	B	B	課題の提出状況は、学年進行とともに大きく改善しているが、まだ完全にはできない生徒がいる。家庭学習についても、同様の状況である。「下学上達」も同様の状況である。主体的に学習に取り組む積極的な姿勢が、受験の学年が近づくとともに少し見えるようになってきた。	進路目標を設定させることで、主体的な学習態度を育成する。	
	社会性の獲得を目指す。	学校行事や学級活動、部活動など様々な機会を通して、自己を表現する力や他の生徒とのコミュニケーションをとる力を身につけさせる。	B		修学旅行では、修学旅行委員や各クラスの出し物でレクリエーションが盛り上がった。消極的な生徒はほとんどなく、なごやかに楽しむ姿が好ましかった。行事などをとおして仲間づくりが進んだ一方で、まだ一部の仲間内だけにとどまってしまう、他と関わらない生徒がいる。	LINEによるトラブル対策の強化が必要である。	
第3学年	礼儀・マナーの大切さに気づき、基本的な生活習慣の更なる確立と実践を図るとともに、規範意識を一層向上させる。	遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。全体として前年比20%減少を目指す。)服装・頭髪・言葉遣い等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す。)	B		遅刻指導をした生徒は2名。(2年次14名・1年次14名)。2年次との遅刻回数比34%減少・1年次比31%減少。頭髪指導をした生徒は1名。(2年次10名・1年次9名)。生徒指導部による特別指導を要した生徒は0名。(2年次1名・1年次3名)。進路の実現に向けて遅刻については大幅な改善が見られる一方、進路の迷いや人間関係の悩み等による欠席が増加した。	遅刻日の放課後に1時間の居残り学習、8時30分までに登校できない生徒には30分の居残り学習を課し指導を徹底した。服装・頭髪・化粧・遅刻等の指導については今後も同じ形で継続して指導していく。	特になし
	生徒の心身の健康を保持増進させるとともに、人としての個性を尊重し、共に支え合う姿勢を養う。	人権教育HRや人権教育及び各種講演会、学年集会、総合的な学習の時間など、様々な機会をとらえて自己を見つめさせ、「認め合う」姿勢を養う。	B	B	すぐに目に見える成果が出るのではないが、文化祭・体育大会・校外学習・進路実現に向けた実力養成講座や放課後の自学自習等の機会をとおして、クラスやクラスを超えた人間関係が改善したところも見られた。つらい立場にある生徒にうまく寄り添う姿も見られた。	人権教育HRや人権教育及び各種講演会、学年集会、総合的な学習の時間など、様々な機会をとらえて継続して取り組む。	
	生徒の目標とする進路を実現できるように必要な支援を行う。	実力養成講座、各種ガイダンス、面接講習、学年集会、三者面談などを行い、進路に向けての意識・意欲を高める指導を徹底して行う。	B	B	学級担任・進路指導部を中心にきめ細かく進路指導が行われ、早い段階から進路に向けての意識を高めることができた。進路の実現に向けて果敢に全国の国公私立や私立学難関校に挑戦し続ける生徒、難関公務員試験や民間企業受験に臨む生徒が多数見られる一方、早い段階でのAO入試で進路先を決定する生徒も見られた。	各種入試制度や各進学先の研究、受験科目の設定、将来の職業観等の確認・指導をしていく。センター試験や一般入試まで挑戦できるような生徒に必要な支援を行う。	



